

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol. 8

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

中央アジアに位置する国家**アフガニスタン**にソ連軍が侵攻したのは一九七九年十二月。それから四十年、アフガニスタン情勢は刻々と変わっていきましたが、未だ**不安定な政情**は続いています。長年、現地で支援活動が続けてきた日本人医師がテロにより殺害された事件も記憶に新しいところです。私たちにとって**遠い国**であるアフガニスタンで、一体何が起きているのか。その渦中で、子どもたちがどうやって生き抜いて来たのかを、**児童文学作品から知る**ことができます。ソ連軍が撤退し、タリバン政権が台頭し、その後、支援するアルカイダが引き起こした同時多発テロから、アメリカとの戦闘が繰り広げられていきました。**混乱し続ける世界**を受け入れざるを得ない子どもたちがいて、その心が感じとったものを捉える物語がここにありまます。それは西欧的な価値観では計りきれない文化的な背景にもアプローチする貴重な一歩にもなるはずで

特集

物語で知る **アフガニスタン**



生きのびるために

The breadwinner.

作者 デボラ・エリス  
 翻訳者 もりうちすみこ  
 出版社 さ・え・ら書房  
 発行 2002年2月  
 ISBN 978-4378007663

review



2019年12月に日本公開されたアニメーション映画**ブレッドウィナー**の原作です。

タリバン政権下のアフガニスタン。タリバン兵に突然、父親を連行されてしまった十歳の少女パヴァーナは、家族の生活を支えるため、カブールの町でお金を稼ぎ、食べものを入手しなければならなりません。女性が一人で外出したり、外で働いているところが見つかれば、タリバン兵に容赦なく断罪されるため、**少年の格好**をして働くパヴァーナ。教師であった父親とラジオ局に勤めていた母親のもとで、十分な教育を受けていた彼女には**教養**という武器がありました。字が読めない人のために手紙の代筆や代読をする中で、タリバン兵からも依頼を受け、残酷なだけの存在と思っていた彼らの意外な一面も知ります。なんとも家を爆撃で失い、学校も破壊され、父親は理由もなく捕まってしまう。この理不尽で過酷な世界で途方に暮れながら、それでも**生きのびるために**、パヴァーナの熾烈な冒険は続きます。

はるかなるアフガニスタン

Extra credit.



作者 アンドリュー・クレメンツ  
 翻訳者 田中奈津子  
 出版社 講談社  
 発行 2012年2月  
 ISBN 978-4062174688

review



アビーはイリノイ州に住む小学六年生の女の子。フリースライミングに夢中で、学校の成績は下がる一方。先生はアビーに**異なる文化**を持つ外国の学校の生徒と文通することを進級の条件にします。アビーが地球儀を指でたどりながら見つけた外国がアフガニスタン。さて、首都カブールから百キロ以上も離れた村では、アメリカの女の子から**文通希望**の手紙がきたことが大騒ぎを引き起こします。アビーの文通相手として選出されたのは村でいちばん勉強のできるサディードという男の子。アビーはサディードからの手紙に書かれた**向かいの家が突然にロケット弾で吹き飛ばされる**ような日常に驚かされます。はるか遠くの国に住む人と言葉交わすことに胸の高鳴りを覚えていく二人。しかし、この文通は双方の国で物議を醸すことになるのです。

11番目の取引

The Eleventh Trade.



作者 アリッサ・ホリングスワース  
 翻訳者 もりうちすみこ  
 出版社 鈴木出版  
 発行 2019年6月  
 ISBN 978-4790233565

review



祖父と二人でタリバン政権下のアフガニスタンを逃れ、各国を転々とした四年間の**難民生活**を経て、ニューヨークで安住の地を得た少年サミ。この逃避行を支えてきたのは祖父が得意とする**ルバーブ**という民族楽器でした。しかし、祖父からルバーブを預かったわずかの間に、サミは楽器を盗まれてしまいます。楽器の行方は掴めたものの、ルバーブを高額で買い戻すこと。お金のない十二歳の少年は、自分のわずかな持ち物を交換する**取引**を重ねていきます。そこつながり、関係を広げていきました。そこで問われたのは、**自分が自分である**ということ。文化の違うニューヨークで**異邦人**として戸惑うサミのアフガニスタン人としての価値観が、西欧的な価値観を逆照射します。物語は本国での過酷な経験を次第に明らかにしながら、思いもかけない取引をサミに巡りあわせます。

海のむこうのサッカーボール

Boy overboard.



作者 モーリス・グライマン  
 翻訳者 伊藤菜摘子  
 出版社 ポプラ社  
 発行 2005年7月  
 ISBN 978-4591087237

review



恐怖政治に支配されたタリバン政権下。少年たちはサッカーに興じながらも、一步、村はずれに踏み出せば、そこは空爆にさらされ、戦車の残骸と地雷が埋まった地帯です。主人公ジャマルの母親が、禁じられている「学校」を家の地下室で開いていたことが政府に知られてしまい、一家は家を**爆破**され、両親は**処刑**されそうになり、必死で逃れて、国境を越え世界を縦断する**過酷な難民生活**を送ることになります。希望を失わない子どもたちは、いつかワールドカップで活躍する選手になって、政治だって変えてみせる、と思うものの、今はサッカーボールを抱えて逃げる**だけ**で精一杯。スタジアムで行われているのは、国際試合ではなく、見せしめの政治犯の銃殺刑なのです。過酷な世界を懸命に生き抜く子どもたちのバイバイリテイとユーモアに胸をしめつけられます。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.8 2020年1月1日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、受賞。



Twitter連携しています。

@tommoostretch